

予報期間 8月6日から8月12日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 台風第10号については最新の台風予報を参照。
- 8日は、サハリン付近に低気圧があり、日本の東から本州南岸に前線がのびる。
- 9日から10日は、前線が本州南岸から九州付近に停滞する。
- 11日から12日は、日本の南に高気圧が張り出し、前線が本州付近に北上する。

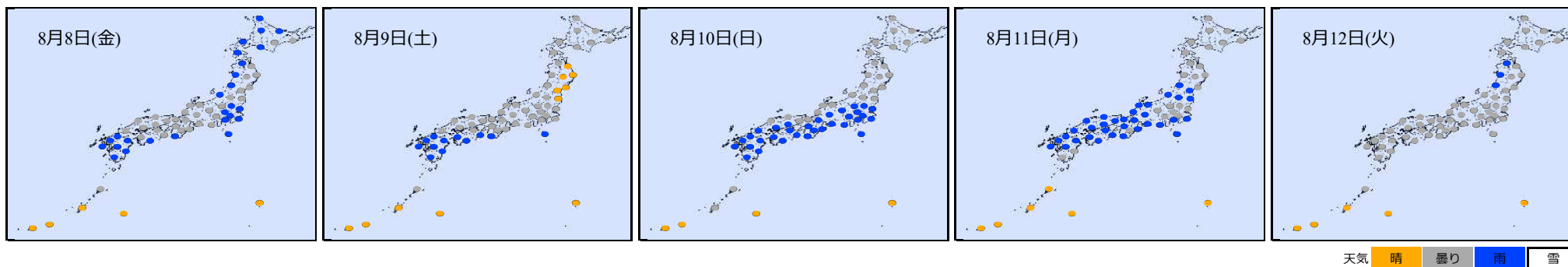
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10日頃にかけては、西日本では、前線の影響で大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 全国的に、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

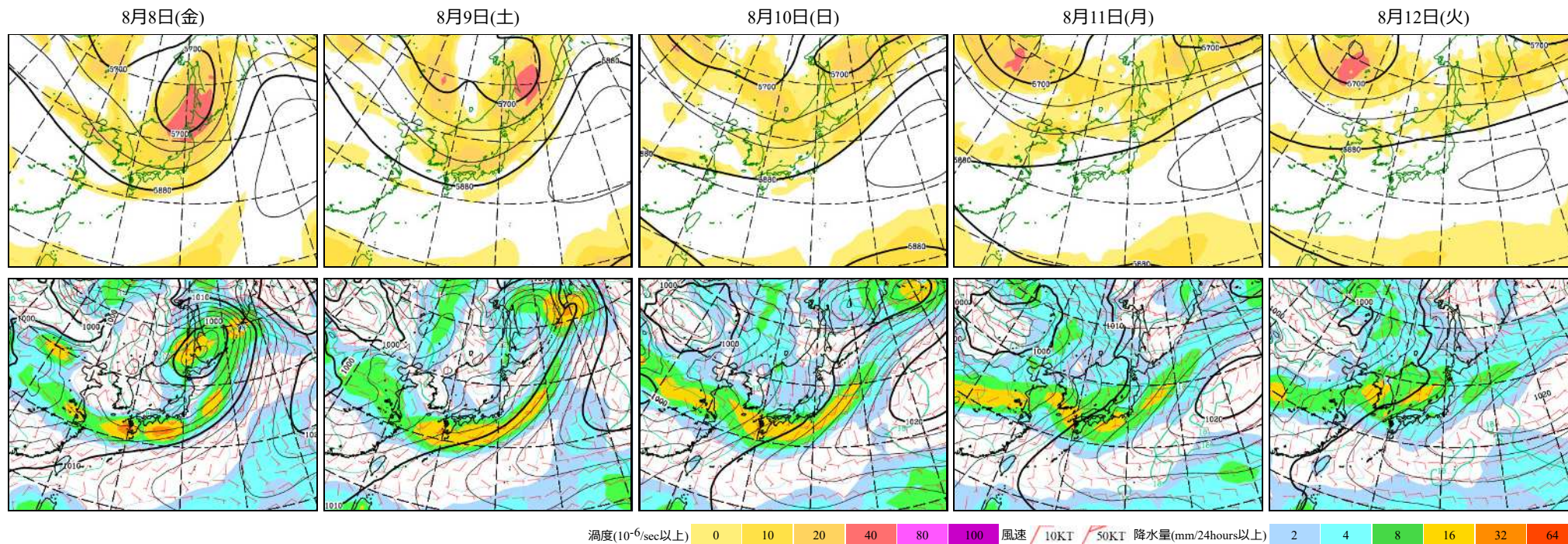
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

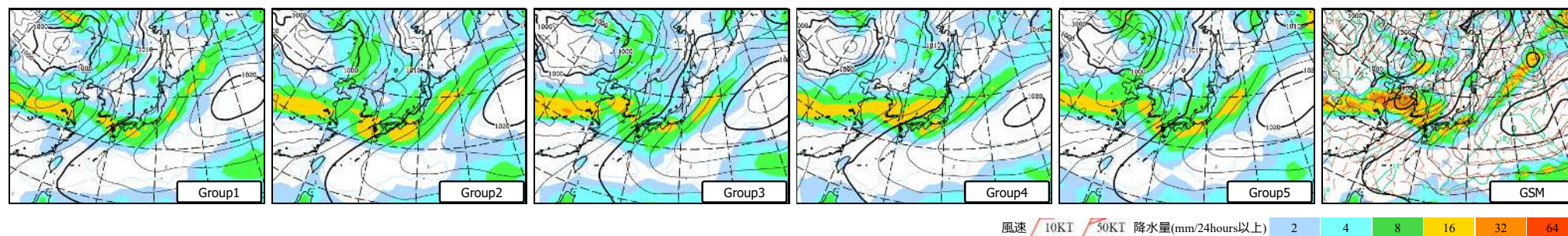


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、9日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れや曇りの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月11日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8日は、前線の位置が本州南岸から九州付近のメンバーが多くなりメンバー間の違いが少なくなった。9日から10日にかけて朝鮮半島付近の高気圧が強くなった。9日から11日にかけて日本の東の高気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、8日と10日に東日本と西日本で小さくなった所がある。
- 期間後半に高気圧が張り出し前線の北上する傾向はモデル間で整合しているが、低気圧や前線の位置はモデル間に差がある。スプレッドは期間末には比較的大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。